

# 令和4年（2022年）度事業報告

令和4年4月1日～令和5年3月31日

公益社団法人 雨水貯留浸透技術協会

令和4年（2022年）度事業の概要を下記のとおり報告する。

## 1. 会員の状況

2023年3月31日現在

会員の種類	期首	入会	退会	現在
正会員	24	2	2	24
賛助会員	48	3	4	47
計	72	5	6	71

入退会内訳

正会員

【入会】(2社)(株)佐藤渡辺, リス興業(株)

【退会】(2社)(株)アートンシビルテクノ, (株)タニタハウジングウェア,

賛助会員

【入会】(3社)(株)タニタハウジングウェア, 日本興業(株), 古河産業(株)

【退会】(4社)(株)テクノテック, 三井住建道路(株), (株)佐藤渡辺, リス興業(株)

なお、3/31付、積水テクノ成型(株)が退会、4/1付、積水化学工業(株)が正会員として入会。

## 2. 社員総会、理事会等の開催

### (1) 社員総会

#### ・第11回定時社員総会

開催日：2022年5月27日 Web会議方式

正会員総数 23名

出席等 出席会員数(オンライン参加) 12名

書面による議決権行使数 7名

委任状による代理人数 4名

議事 (決議事項)

第1号議案 令和3年(2021年)度事業報告承認の件

第2号議案 令和3年(2021年)計算書類及び同附属明細書承認の件

第3号議案 令和4年度役員報酬承認の件

第4号議案 役員選任(定期改選)の件

(報告事項―第 32 回理事会決議事項)

令和 4 年度事業計画書報告の件

令和 4 年度収支予算書報告の件

◇決議事項 4 議案については、審議の結果事務局原案のとおり可決承認された。

(2) 理事会等

・ 社内監査 (2022 年 4 月 28 日)

監事 2 名による、令和 3(2021)年度の収支及び財産の状況並びに理事の業務執行状況について監査が行われ、いずれも適正であるとの承認を受けた。

・ 第 33 回理事会 (2022 年 5 月 11 日)

上記理事会を決議の省略(書面決議)により開催、第 11 回定時社員総会に提出する議案、「令和 3 年度事業報告」、「令和 3 年度決算関係書類」、「役員候補者案(定期改選)」、「第 11 回定時社員総会における書面での議決権行使について」、「令和 3 年度公益目的事業余剰金使用計画」、の審議を行い、いずれも事務局原案通り承認された。

・ 第 34 回理事会 (2022 年 7 月 11 日)

(株)佐藤渡辺より賛助会員から正会員へ移行の申し込みがあったため、上記理事会を決議の省略(書面決議)により開催し、正会員移行について審議を行い、7/15 付にて入会が承認された。

・ 第 35 回理事会

開催日：2022 年 10 月 19 日 場所：雨水協会会議室 Web 会議

理事総数 10 名 出席理事数 7 名 出席監事 2 名

議案(決議事項)

第 1 号議案 『入会伺い』の件 (日本興業(株))

第 2 号議案 『下期 役員報酬額承認』の件

(報告事項)

① 役職理事の職務執行状況報告

② 第 38 回技術講習会の開催について

③ 機関誌「水循環 貯留と浸透」電子化について

④ 特定費用準備資金規程の新設について

◇決議事項 2 議案については、審議の結果、事務局原案のとおり承認された。

・ 第 36 回理事会 (2023 年 1 月 13 日)

リス興業(株)より賛助会員から正会員へ移行の申し込みがあったため、上記理事会を決議の省略(書面決議)により開催し、正会員移行について審議を行い、1/20 付にて入会が承認された。なお、年会費については、次年度より正会員として徴集することとした。

## ・第37回理事会

開催日：2023年3月16日 場所：雨水協会会議室 Web会議

理事総数10名 出席理事数8名 出席監事2名

議案（決議事項）

第1号議案 『入会伺い』の件（古河産業・積水化学工業の件）

第2号議案 『特定費用準備資金規程 承認』の件

第3号議案 『令和5年度事業計画及び収支予算書等承認』の件

第4号議案 『令和5年度役員報酬案承認』の件

第5号議案 『第12回定時社員総会の日時及開催場所並びに目的事項等』の件  
（報告事項）

① 役職理事の職務執行状況報告

② 令和4年度決算見込みについて

◇決議事項5議案については、審議の結果、事務局原案のとおり承認された。

### （3）常設委員会等 （ ）は開催回数

① 企画委員会（5回：6/15, 7/15, 9/12, 12/14, 2/22） Web会議

委員長：日本工営（株） 高祖 成一

② 編集委員会（4回：6/6, 9/9, 12/20, 3/9） Web会議

委員長：東京都立大学 名誉教授 河村 明

③ 評価認定委員会（4回：6/28, 9/30, 12/19, 3/30）

委員長：東京大学名誉教授 虫明 功臣

④ プラスチック製地下貯留浸透施設普及部会（3回：6/21, 12/6, 3/6） Web会議

⑤ プラスチック製地下貯留浸透施設技術指針改訂共同研究会

a) 調査・計画・施工・維持管理部会 Web会議（11/30, 1/31, 3/1）

b) 構造・設計部会 Web会議（11/29, 1/23, 3/7）

c) 耐震設計部会 Web会議（12/9, 1/27, 3/6）

d) 品質監査部会 Web会議（8/22, 10/6, 12/12, 1/26, 3/10）

⑥ G I を考える勉強会

Web会議（11回：4/22, 5/11, 6/13, 7/20, 9/5, 10/3, 11/15, 12/12, 1/19, 2/24, 3/29）

座長：物林（株） 勝田 幸仁朗

### 3. 調査、研究、開発

#### (1) (都市河川流域の) 水循環系健全化方策の検討

##### ① 新たな製品、構造物およびシステムの開発と実用化

- ・透水性と保水性に富んだ「グリーンインフラソイル(仮称)」の開発  
関東ローム土に無機系材料や有機系材料を混合し、転圧した改良土の透水性及び保水性の改善効果を調査  
(6/2, 7/29, 2/19, 1/19, 3/14)

【(公財) 都市緑化機構G B M共同研究会】

- ・多孔質媒体ポーラスコンクリートの新たな活用技術戦略立案  
福島大学・東京大学・佐藤工業・マテラス青梅・宮城県からなる研究会により、脱炭素に資するポーラスコンクリートの活用策を検討  
(8/26, 9/28, 11/26, 12/9, 1/19)

【令和4年度KCK Cみやぎ産学共同研究会】

##### ② できる限り自然を活かした効果的な方策(緑地の持つ保水機能評価)

- ・簡便な地表面の飽和透水係数測定方法(インフィルトロメータ試験法)の開発  
【東京都立大】
- ・都市の既存林地における降雨の浸透能向上手法に関する調査

【受託:(国研) 建築研究所他】

##### ③ 雨水の水質制御

- ・ポーラスコンクリートによる重金属流出抑制・資源化プロジェクト

【福島大学令和4年度大学発イノベーション・ベンチャー創出事業】

#### (2) 雨水貯留浸透施設の効果評価の検討

##### ① 開発地域の特性に見合った適切な貯留浸透施設の計画設計の検討

- ・六角川水系他河川調査委託(技術基準作成)支援(受託:日本工営)

##### ② 流域、都市、開発地域等での効果について、解析的な評価手法や簡便な評価手法を適用した検討

- ・茨城県雨水貯留浸透施設再評価業務支援(受託:三井共同建設コンサルタント)
- ・海老川流域雨水貯留浸透施設維持管理要領作成支援(受託:日本工営)
- ・民間開発事業における貯留浸透能力の照査

##### ③ 現地浸透能力調査

- ・丸の内レインガーデン(三菱地所)
- ・川崎市溝の口、府中市(秩父ケミカル)
- ・横浜市若葉台(日之出水道)
- ・山中湖(光)
- ・群馬県住宅供給公社ロイヤルタウンみずき野(協会自主研究)

##### ④ 全国における貯留浸透施設普及状況の実態把握と普及方策の検討

###### ① 2021年度プラスチックおよびコンクリート製地下貯留槽施工実績調査

1997年度からの累計: 1,194.8万 $\text{m}^3$ , 令和2年度施工: 83.7万 $\text{m}^3$

###### ② 塩化ビニル管・継手協会(旧プラスチック・マスマンホール協会)との連携

雨水浸透ますの普及促進について意見交換(4/16, 10/11, 3/17)

###### ③ 自治体との意見交換

- ・川崎市建設緑政局総務部企画課と浸透施設の道路への適用(2/7)
- ・東京都都市整備局都市基盤部調整課と浸透施設の普及広報(2/24)

## (4) 雨水貯留浸透技術のアジアモンスーン地域への展開検討

### ① JICA「民間企業海外展開支援事業」

国際協力機構（JICA）が推進する下記事業へ外部人材として参画。

- ・「タイ国 浸水被害の軽減に寄与するプラスチック製雨水貯留構造体の普及・実証・ビジネス化事業」（令和元年6月より2年間の予定がコロナ禍により1年半延長）  
秩父ケミカル（株）：モニタリング結果報告書作成、本邦受入研修（9/14～16）  
現地成果セミナー（10/7）
- ・「インドネシア国 膨張粘土および軟弱地盤地域におけるインフラ被害への多孔質コンクリート製品導入案件化調査」（令和4年3月～令和5年度12月）  
北海道ポラコン（株）：技術適合性と技術指針等の調査，第1回（5/29～6/4），  
第2回（8/28～9/3），第3回（11/27～12/3）渡航調査

### ② 「アフリカ諸国における水防災・水資源分野の課題解決に資する本邦製品・技術に関する調査」についてのヒアリング対応

国際建設技術協会・八千代エンジニアリング（10/20，2/15）

## 4. 技術指針等の整備

- ・グリーンインフラ（GI）を考える勉強会を11回開催し、雨水GI定義、GIチェックシートの作成を行った。
- ・「プラスチック製地下貯留浸透施設技術指針案（平成30年度版）」の改訂に向けて共同研究会を発足させ、令和5年度末の改訂に向け検討を進めた。
- ・上記指針改訂の基礎資料とするため、プラスチック製地下貯留槽の実施設に対し、貯留水位、土圧、変位量、温度のモニタリングを開始した。（12/9）
- ・「増補改訂版 雨水浸透施設技術指針（案）調査・計画編」を増刷した。（2/24）

## 5. 雨水貯留浸透技術の普及啓発活動

### (1) 図書等の発行・頒布

#### ① 機関誌「水循環 貯留と浸透」 第124号～127号

各号特集テーマ 124号 特別号「雨水」：雨水の新たな価値発見

125号「高橋裕先生を偲んで」

126号「こども×雨水」

127号「金融×雨水」

#### ② 雨水浸透施設技術指針等発行図書の頒布

頒布数：14種 計746冊 頒布先数：延べ388社

#### ③ 機関紙の電子化・Web公開

「雨水技術資料」及び「水循環 貯留と浸透」のバックナンバーを次年度よりホームページ上で無料公開するためのシステム構築・ページ作成

#### ④ 雨水貯留浸透技術評価認定技術のPR

技術評価認定された工法・製品のPRページ（動画・カタログ掲載）の作成、公開は次年度5月を予定。

## (2) 技術講習会・施設見学会の開催

### 第38回 雨水貯留浸透技術講習会

開催期間：2022年11月21日（月）～12月9日（金）

開催方式：ビデオ・オン・デマンド方式でのWeb講座

受講者数：111名（自治体職員、会員・会員外企業等）

※土木学会継続教育（CPD）プログラム認定講習会

流域治水 全員参加！！	
題 目	講 師
治水行政に関する最近の動向 ～流域治水に関する法令・制度解説～	国土交通省水管理・国土保全局治水課 課長補佐 池田大介
流域治水を核とした復興を起点とする持続社会	熊本県立大学 緑の流域治水研究室室長 特別教授 島谷 幸宏
流域治水に関する新たな取り組み ～水害の防災・減災に向けた地域・企業との連携	いわき市 土木部 河川課 主幹兼課長補佐（流域治水担当） 安積 秀哲
世田谷区の流域対策と道路空間 における課題と実例	世田谷区 土木部 豪雨対策・下水道整備課 豪雨対策担当 主事 座間 貴之
見附市の田んぼダムの取り組みについて	見附市 農林創生課 農林整備係長 阿部 泰比古
治水 ONE NAGANO ～みんなでとりくむ流域治水～	長野県 建設部 河川課 計画調査係 主任 下川 雄央
滋賀の流域治水 ～条例制定と4つの対策～	滋賀県 土木交通部 流域政策局流域治水政策室 流域治水第二係 主幹兼係長 山田 千尋
大和川流域における総合治水から 流域治水への進展について	奈良県 県土マネジメント部 河川整備課 主査 上田 篤司
「総合治水条例」の制定とその成果	兵庫県 土木部 総合治水課 計画班長 藤木 幹生
講演時間合計	3時間20分

※コロナ禍のため、『見学会』は未実施

## (3) 普及・啓発のための雨水貯留浸透施設の展示・セミナーの開催等

### \* 第3回 雨水基準制度研究会シンポジウム

NPO法人雨水まちづくりサポートと当協会との共催で、研究会参加団体（自治体、企業等）の取り組み紹介、研究会での活動内容報告や意見交換を目的として開催した。その中で、屋井常務理事が「雨水貯留浸透施設の流出抑制評価」について報告を行った。（5/20）

### \* ARSIT Learning Salon オンライン連続講座

第1回 基礎編「今さら聞けない！？雨水貯留浸透のQ&A」 講師：平田

貯留・浸透とは？流出抑制とは？水循環とは？等、用語の定義や知っておくべき基礎知識を解説した。（2/16 参加者数：10名）

第2回 技術編「お答えします！雨水貯留浸透のQ&A」 講師：益田

技術指針において、実務を行う上でより使える知識や計算方法を解説した。

（3/2 参加者数：13名）

### 第3回 総括「基礎編・技術編を終えて」

平田・益田両講師による基礎編・技術編のふりかえりや質問への捕捉説明と、屋井常務理事の進行による「維持管理の現状と課題」、「流域治水の推進」及び「雨庭・レインガーデン」に関する自由討議を行った。(3/16 参加者数：8名)

#### \* あまみず交流会

企画委員会の発案により、会員の多様性を強みとし、個々の企業では得られなかった新たなニーズや人脈、情報を発掘し、雨水ビジネスの発展、新規顧客開拓、会員間での協働ビジネスにつなげていくための、気軽な情報・意見交換（サロン）の場として「あまみず交流会」を定期（毎月第三水曜日）開催。

参加人数	開催	話 題 提 供	
1雨 (17名)	8/17	雨を溜めても、次の日にはグラウンドが使える！	ハイクレー
2雨 (16名)	9/21	目詰まりしない排水システム ドレインベルト・ドレインパイプ	古河産業
3雨 (12名)	10/19	水で水を防ぐ！大型水のう	アロン化成
4雨 (17名)	11/16	道路緑化基盤を活用した雨水貯留浸透 ～街路樹の根上り防止と雨水流出抑制	日之出水道
5雨 (14名)	12/21	既存の雨水ますを手軽に浸透施設へ、 非開削工法・EGSM工法とは	スピーダー レンタル
6雨 (13名)	1/18	グラウンドセルマットレス工法	東京インキ
7雨 (12名)	2/15	内水氾濫対策製品、バリアフリーペイブ SI	日本興業
8雨 (11名)	3/15	プラスチックの現状と未来	帝人

#### \* プラスチック製地下貯留浸透施設普及部会勉強会

東洋建設 技術研究所 構造研究室室長 荒金直樹氏を講師に迎え、プラ普及部会々員を対象に「プラスチック製雨水貯留槽の耐震性能実験について-建築構造の耐震性能評価から取り組み」について講演頂き、意見交換を行った。(3/6 参加者：20名)

#### (4) 雨水貯留浸透技術に関するPR及びパンフレットの作成・配布

- ・下水道協会誌6月号、「雨水貯留浸透施設の種類と仕組み」
- ・環境新聞7月20日記事、「雨水グリーンインフラを考える勉強会発足  
～貯留浸透施設と緑化により雨水流出抑制～」
- ・月刊下水道1月号、「気候変動適応策としての雨水活用と都市”親水”対策」
- ・土木施工2月号、「流域治水実践、期待される雨水貯留浸透技術  
～技術開発の現状と課題～」

## (5) 雨水貯留浸透技術に関する問い合わせへの対応

国、自治体、企業、コンサルタント、個人等からの電話、メール等による問い合わせ、相談等に対応した。また、雨水貯留浸透に関するよくある質問項目に対し、ARSIT Learning Salonにて解説した。

### \* 浸透施設の日詰まりに関する実験についての相談

(国土技術政策総合研究所 下水道研究部, 2/17)

### \* 「アフリカ諸国における水防災・水資源分野の課題解決に資する本邦製品・技術に関する調査」についてのヒアリング

(国際建設技術協会・八千代エンジニアリング, 10/20, 2/15)

## (6) 雨水貯留浸透技術に関する社外講演及び学会発表 (海外含む)

### ① 市民団体や関係機関等の依頼による講演活動

#### \* 物林㈱の社内研修

会員企業である物林㈱の新入社員を対象とした社に研修において、屋井常務理事が「雨水貯留浸透とグリーンビジネス」を講義した。(4/13)

#### \* 第30回 日本雨水資源化システム学会大会

屋井常務理事が理事(副会長)を務める日本雨水資源化システム学会の第30回学会大会が岐阜大学サテライトキャンパスにて開催された。研究発表会では、「表層土壌の簡易浸透試験(その2)」について、益田次長が発表を行なった。

(10/29・30)

#### \* 土木学会関東支部第50回技術研究発表会

「動画解析による携帯型ミニディスクインフィルトロメータ試験法の改良に資する研究」を都立大学と連名で投稿し、修士学生が発表した。(3/8)

### ② 海外国際会議等での発表

実施なし

## (7) 雨水貯留浸透技術のデータベースの作成及び情報提供

### ・プラスチック及びコンクリート製地下貯留槽の施工実績調査の実施

調査結果については、機関誌やホームページで公開。



## 6. 雨水貯留浸透技術評価認定

平成8年6月1日に雨水貯留浸透技術評価認定制度がスタートし、昨年度までに技術評価認定46件、OEM版3件、製品評価認定26件、技術推薦6件を実施した。今年度は下記のとおりである。

### 【令和4年度評価認定書交付実績状況】

#### \*技術評価認定

- ・テンレインスクラム工法（材料変更） 天昇電気工業

#### \*製品評価認定

- ・エコロベースソイル（新規） ビルマテル

#### \*その他

有効期間満了に伴う認定

#### 技術評価8件

- ・J S ドレーン工法 城東リプロン・サムシング
- ・ニュープラ工法 秩父ケミカル
- ・J ミックス 東邦レオ
- ・NT式I型雨水貯留槽 日東
- ・NT式X型雨水貯留浸透槽 日東
- ・プラックス工法 共和コンクリート工業
- ・コンタイプブロック工法 中川ヒューム管工業・林物産
- ・WT工法 タケウチ建設

#### 製品評価4件

- ・シントーホール（鉄蓋含む） 雨水貯留浸透製品工業会
- ・浸透ポラコン柵 関西ポラコン
- ・スクエアターフ洪水無用 共同カイテック
- ・バリアフリペープ SI 日本興業

## 7. 雨水貯留浸透技術に関する関係機関への協力、提言等

### ① 公共機関への協力提言等

#### \*グリーンインフラ（GI）官民連携プラットフォームへの協力

- ・運営委員会(天野理事)および技術部会（田川 ARSIT 水循環アドバイザー）に参画
- ・公開セミナー「第2回 GI による都市雨水管理」にて  
“これまでの土壌浸透能力の評価方法とその活用”を益田次長が講演（9/29）
- ・「先導的 GI モデル形成支援」川口市庁内意見交換会にて“都市における GI による浸水対策～都市部の治水対策としての雨水浸透処理～”を屋井常務理事が講演（1/17）
- ・GI 産業展メインブース展示協力（2/1～3）

#### \*第14・15回なごや水の環推進懇談会への協力

ARSIT 水循環アドバイザー奥谷順彦が、首記懇談会のメンバーとして参画

(8/22, 3/24)

## ② 海外からの調査団等の受け入れ、国際交流等

### \* JICA 本邦受け入れ研修への協力

- ・タイ国工業団地公社の職員に対し、雨水貯留浸透施設に関する技術指針や流出抑制効果の講義および現地見学を実施 (9/14~16)
- ・ボリビアからの調査団に対し、日本の雨水貯留浸透技術を紹介 (10/28)

### \* GI 施設見学の実施

- 日本学術振興会の招聘研究者（オーストラリア・カーズティン大学）に対し、GI 施設見学を行い、意見交流を行った。(10/17, 11/9)

## ③ 外部組織との連携による普及・調査研究業務の実施

### \* 日本建築学会

- ・あまみず活用の評価を考える小委員会に委員として参加
- ・雨水活用技術規準改定小委員会に幹事として参加

### \* 都市緑化機構

- ・G B M共同研究会
- ・「先導的な緑化関連技術開発の実態調査」へのアドバイザー支援

### \* 雨水基準制度研究会

- ・第3回シンポジウムの開催 (2022/5/20)
- ・自治体分科会（現地見学と意見交換）の開催 (2022/12/21)

### \* NPO 法人雨水まちづくりサポート

- ・上記団体主催セミナーで、“雨庭の基準や制度づくりの現状と課題”を講演 (1/14)
- ・同団体受託「米国コカ・コーラ財団グリーンインフラ活用助成プロジェクト」へ雨水貯留浸透技術に関するアドバイザーとして支援

## 8. その他協会の目的を達成するために必要な事業

\* 令和4年度グリーンインフラ創出促進事業へ会員と応募

\* インフラ運営等に係る民間提案型「令和5年度官民連携モデリング事業」へ応募

以上

※令和2022年(令和4年)度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定される付属明細書について、「事業報告の内容を補足する重要な事項」がありませんので作成しておりません。